毎月1回20日発行　（昭和31年3月28日第三種郵便物認可）

やまと博物館

編集責任者　大町山岳博物館

しなのきんばい
Trollius japonicus Mig

橙黄色の花をつける。高山帯、亜高山帯の湿潤な陽地に群生する多年草。壮大な山の自然に溶け込んだその相観は私たちを夢幻の世界に誘引する。うまのあしがた科、北海道、本州中部以北に分布。（白馬岳にて、1956年8月）

NO. 7　臨時特別号　1956·8.15　　大町山岳博物館後援会 発行

中性お花畑、ハイマツ群叢の間のなだらかな広がりに発達する。手前の白色の花はハクサンイチゲ。中景はハイマツ。遠景は立山連峰

亜高山の濕潤な半陰地に群生するサンカヨウ、白色花果実は径一、五糎熟すると黒碧色となり白粉を被る。

北アの高山植物

……お花畑を尋ねて……

およそ100万年前、第三紀洪積世に北周極の植物がアジア大陸の東部を南下して、當時寒冷であった日本列島に一様に分布していた。その後、気候の緩和によって、南方の植物が侵入し、高山に退いた植物が高山植物の祖先となった。こうして、長い間にある植物は高山という環境に適応し、ある種は絶滅し、進化の歴史をたどって現在の高山植物が生れたのである。自然はこれらの植物にさまざまな条件、環境を創造する。植物はそれに適応し得る生活範囲の限界を形造る。高度はその分布に大きな影響を与える。その結果、山地帯、亜高山帯、高山帯の異る景観を現出させる。多様な環境要素の混合は多様な群落を構成し、秩序と統一のある自然の美しさ、鮮明な色彩を透明な山の自然に放出する。高山植物の魅惑は過激な高山の環境との調和の表われでもある。

高山帯の濕潤地に群生するチングルマ、花は帯黄白色花が散ると長さ3cm程の淡紫褐色の絹毛を生ずる。

山地帯の植物

山地帯は標高500—1500mの地域でミズナラ、クリ、カエデ類、シラカンバなどの落葉性濃葉樹林をもって蔽われるのが普通であるが、山地帯の下部は人工が加わり8m以上の大形挺空植物が減少し、殆んどが2—8mの小形挺空植物をもってしめられる。又この附近は伐採によってススキを主体とする草原が広がり、アカマツの稚樹が草原中に見られ、群落、更新の一段階を示している。山地帯上部には樹高8m以上のツガ、ウラジロモミ、ブナなどの純林がよく発達し、ムシカリ、ミヤマカンスゲ、ツクバネソウ、ツマトリソウなどが下草として見られる、この附近に来ると始めて深山の空気に浸ることができる。

水温の濕沢な岩地に群生するミヤマダイモンチンウ、白色花である

亜高山帯の沃地に大形の葉を拡げ、白色花をつけるキヌガサソウ。本州中北部に分布するユリ科の多年生草本。

亜高山帯の植物

この地帯を過ぎると雪渓から反射する光が奇怪な様相をしたダケカバを浮彫りにする亜高山帯が現われる。陽樹であるダケカバは好んで他の植物が侵入しないような谷の部分山崩の後に発生している。そして、私たちを急に明るい世界に導く。そんな空気と対称的に、同じ地帯にウツソウとしたシラビソ或はオオシラビソの純林が安定した群落の寛容さをもって迫る。あたりにはミネカエデ、ウラジロナナカマド、ミネザクラなどの濶葉樹が散在し亜をそえている。亜高山帯はそこに生活する生物に過度の気候条件を調整し、オオバギボウシ、シラネアオイカニコウモリ、キヌガサソウ、サンカヨウ、シラネワラビなどの大形の湿性地を好む植物が清純なほほえみをなげかけさせる。水湿の潤沢な崖地にはミヤマダイモンジソウ、イワオトギリ、ヒメスゲなどが群生している。その魅力は一入亜高山帯は倭形の挺空植物が常に一定した植生状態を保ち私たちをそこに引きとめようとする。この亜高山帯の上部にダケカバ、シラビソなどの奇形半喬木がその部分一帯にわたり巾100m—200mをもって高山をとりまき、あるいは奇喬木が個性的に発達している地帯がある。かようにこれらの植物は激しい諸条件に耐えながらも生存のためにあらゆる可能性を見出し、生活しているのである。

高山帯の濕潤な地に大群落をなすハクサンコザクラ、濃紅色をつける。径二糎。

高山帯の植物

クロユリ、分布は北海道、本州中北部、高山帯の草原に疎生し、花は紫色、ユリ科。

多くの場合喬木限界線2500m以上に発達する群叢であるハイマツは高山帯の象徴として、大群叢をなし、その間にはミヤマハンノキ、ミヤマヤナギなど亜高山では小喬木状の植物が灌木型となり混生し、シラビソ、コメツガなどの倭樹の混生も見られる。ハイマツの樹下には普通ハクサンシャクナゲ、コケモモ、コメバツガザクラガンコウランなどが群生し、それに暖みを与える。これらの灌木の隙間は殆んど倭小灌木草木をもって埋められる。この部分こそ高山植物の咲き乱れる美しい豊庫なのである高山植物の最適の時期は7月中旬より8月上旬にかけてであり、そしてこの豊庫が色どられる時なのである。

亞高山、高山帯の草地に分布するクルマユリ、花蕚は橙赤色で異臭を放つ、ユリ科。

高山帯の乾燥しない草地に生ずるヨツバシオガマ。紅紫色の花をつける。葉は一節に3～6個輪生する。北海道、本州中北部に分布、ごまのはぐさ科。

中性お花畑　適量の地下水に恵まれた場所にはクロユリ、クルマユリ、ハクサンイチゲ、ウサギギク、ヨツバシオガマ、ハクサンフウロ、シロウマオウギ、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイ、キレバハクサンボウフウ、ミヤマメシダなどが混生或は群生する。この一面紫、紅、白、黄の絢爛としたお花畠が顔前に迫り、自然の美しさに吸引されるばかりである。

高山帯の適潤地又は濕潤地に生ずるキレバハクサンボウフウ。白色花をつける。

乾性お花畑　稜線近くの乾燥した地域に足を伸すと、チシマギキヨウ、ウルツブソウ、コケモモタカネツメクサ、コメススキ、ミヤマリンドウなどの小形の可愛らしい、しかも力強さを感じさせる草本が、疎に多様な色彩を散りばめる。このような植物の分布の状態から分るように植物群落の形成は水分の多寡により支配されることが大きい。水分の最も少い砂礫地、岩石地にはコマクサ、タカネスミレ、イワウメ、コメバツガザクラ、オオツガザクラ、チョウノスケソウ、シコタンソウ、チシマアマナなどが生育している。砂礫の隙間から茎を伸し葉に強い光を受け、或は風雨と寒さと戦い、生命の神秘さを紺碧の空に包みながら、清く生き

高山帯の地下水に恵まれた草地に大群落をなすハクサンイチゲ、白色花をつける

濕性お花畑　残雪から流れ出る水があたりを潤し、流水や池の近くの湿潤な部分にはイワイチョウ、ハクサンコザクラ、ハクサンオオバコ、チングルマ、ハクサンチドリ、ムシトリスミレ、ユキワリソウ、タカネイなどが白、淡紅の溢れ落んばかりの花をつけ一面なだらかな斜面を埋め尽す。柔らげなこれらの植物は激しい高山の気候に耐えながら残雪、霧のわき起る谷間の向うの峻峰を背景に生命の美しさを表現しているかのようだ。高山植物は極めて短く、美しい生命を短い期間に表現する。そのいぶまは順応の鋭さを感ぜさせずにはいられないこうして短い生命は溶雪の後を追い、降雪と共に終るのである。

高山帯又は亞高山帯の水濕十分な地に生じ紫色花をつけるミヤマリンドウ。

高山帯の潤湿地に群生するオオツガザクラ、花冠は帯紅色を呈す。

高山帯の岩石地に多く、わずかな岩隙にも生えるが、砂礫地や草地にも見られるタカネツメクサ、白色の花をつける。本州中北部に分布、ナデシコ科、遠景は杓子岳、白馬ヤリ岳。

高山帯の岩礫地に生ずるチシマギキヨウ、濃菫色の花をつけ、花冠縁に白い、長い毛がある。

高山帯の砂礫地に生育するコマクサ、紫紅色の花をつける、ケシ科

延びる高山植物の姿は私たちを純粋な世界に導く力を充分にそなえている。これらの植物の力強さは過去に於いて彼等が経験した根元的な生命の表われでもある。地上部に比べ長大な根を土中深く伸し外形は縮小し、葉は反撥、肥厚し、多毛、葉の表面はクチクラ化し蒸散を制限する。そして彼等は急激な環境の変化に耐え、生活を円滑に運ばれるよう努力しているのである。前にも述べたように樹高は山地帯上部で最高となり、亜高山帯に入ると急に減じ、その高さを保ち、高山帯となって著しく低くなる。これと反比例して、コメバツガザクラ、ガンコウラン、チングルマ、ツガザクラなど地表性植物が亜の高山帯下部よりその密度を増し、高山帯に至って著しい増大が見られる。このことによっても高山帯の環境に適応した高山植物の姿を想像することができる。高山植物の殆んどすべては多年性の半地中或は地中植物である。それは高山諸条件の圧迫に対する抵抗の姿でもある。

亜恒雪帯の植物

気候的雪線附近まで到達する亜恒雪帯といわれる部分は中部高山に於いては殆んど見られないが局部的にこれらに相当する群叢が見られる。この群叢はイワヒゲ、イワツメクサ、ミヤマタネツケバナ、イワギキヨウなど倭小灌木、小草木の疎生、或は岩隙植物として点在している。彼等の生命は非常な力を持って、自己の生命の繁栄のために新環境を求めて新しく、美しい世界を創造する。その純粋な叫びは白銀の峰々に共鳴し、更に美しい生命をそこに作り出すのである。咲きほこる高山植物、さまざまの表情は彼等のおかれている環境を語り、彼等の苦痛を訴え、夢想し、それに酔い、理想にもう一歩近ずこうと努力しているかのようだ。

おしらせ　本紙の購読を御希望の方には実費 1部10円でおわけします。但し遠方の方は郵送料の実費をいただきます　大町山岳博物館後援会

博物館後援会員募集

博物館後援会の会員を募集しています。年額千円を納める団体ならびに、年額三百円以上を納める個人を正会員といたします。会員には次のような特典があります。

1、博物館の諸指導、行事を通知し参加の便をはかる。
2、毎月〝やまと博物館〟を配布する。
3、団体には講師、指導者派遣の求めに応じる。
4、博物館に支障のない限り、博物館の資料（標本、図書、写真、図版等）器具の借り出しをあっせんする。
5、その他博物館で種名同定、研究指導など諸種の便宜をうけるあっせんをする。
6、いつでも博物館を無料で観覧できる。

編集後記　夏山に涼を求めて入市する人は戦後最高という物凄さ。白馬、烏帽子方面は連日登山者で賑っています。登山された想い出と、いろいろの都合で登山できない方への、せめてもの贈りものと、今月は高山植物の特集を発行しました。▲本館の新築工事は着々と進められ、10月の末には完成される予定です。本館は第3次5ヶ年計画に基いて、拡張整備が行われていますが、ここ数年の間には完備された博物館ができ上るものと期待されています。▲第8号は予定どおり20日に発行されます。

やまと博物館　No.7　1956.8.15発行
編集発行人　大町山岳博物館
発行所　大町山岳博物館後援会
長野県大町市神栄町電話211番
印刷所　信州印刷株式会社